

# 2022年3月期 決算補足説明資料

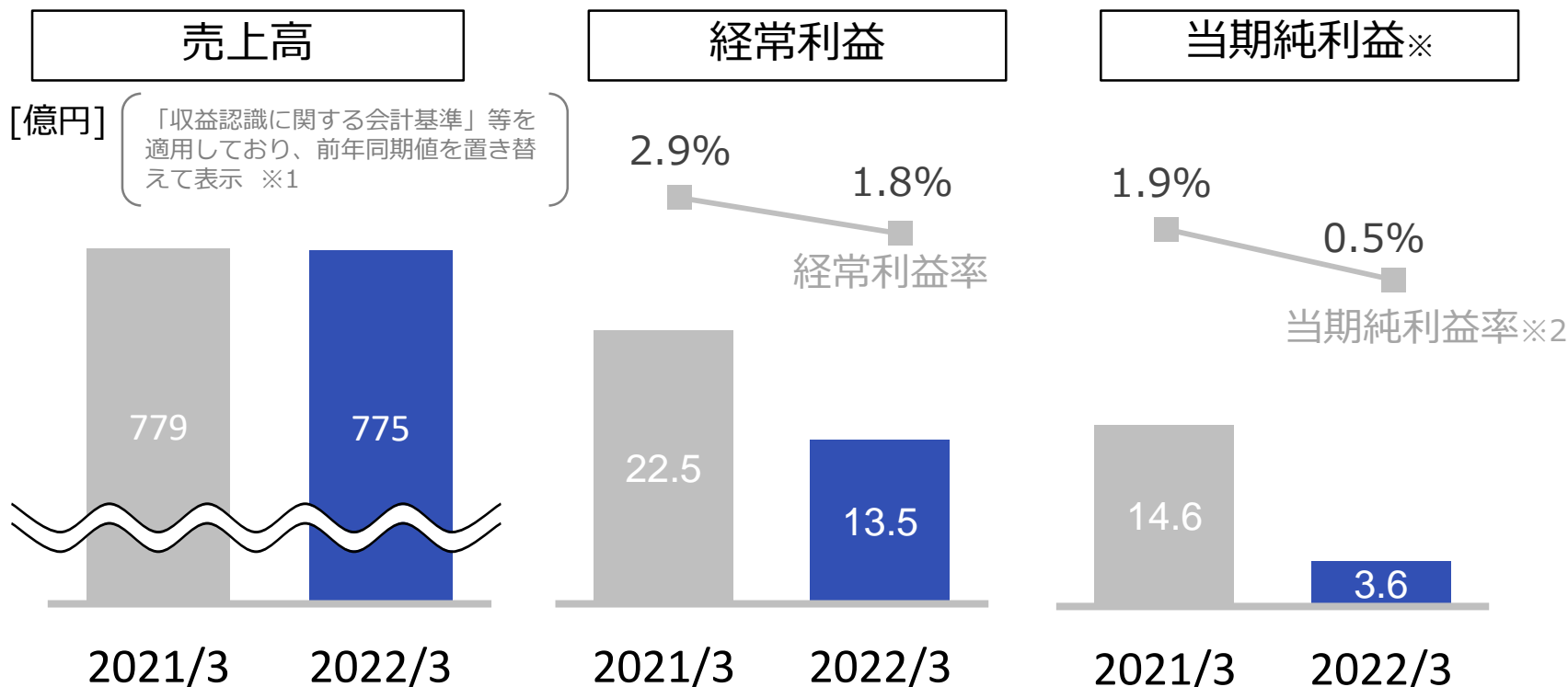
株式会社 ヤギ  
(証券コード 7460)

2022年5月11日

**将来見通しに関する注意事項**：本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 2022年3月期 連結決算の概要

- 売上高775億円（前年同期比増減▲0.5%）、経常利益13.5億（▲39.9%）、親会社株主に帰属する当期純利益3.6億円（▲75.0%）
- 新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、企業活動や個人消費が左右され、依然として厳しい状況が続いたことにより減収減益

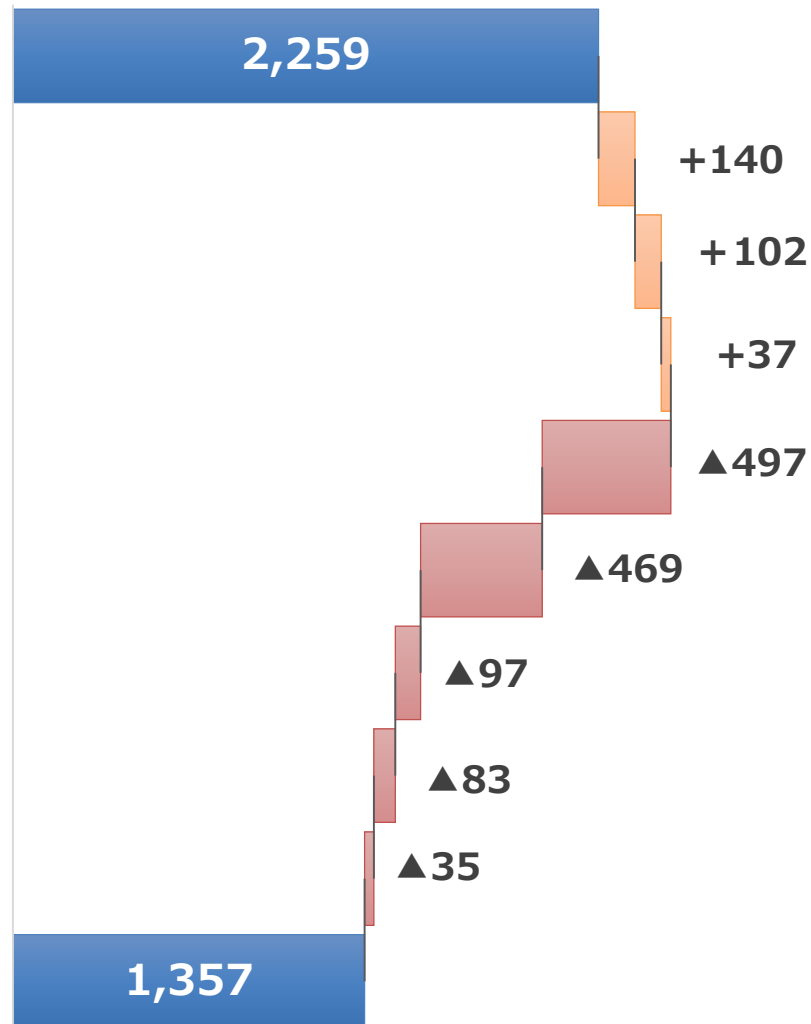


※1. 「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前年同期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前年同期の数値を同様の基準に置き換えております。 ※2. 親会社株主に帰属する当期純利益

# 経常利益 増減要因

[百万円]

2021_期末経常利益	2,259
貸倒実績率低下等に伴う貸倒引当金繰入額の減少	+140
販売手数料を伴う売上減少等による当該経費の減少	+102
受取利息・配当金の増加	+37
売上総利益率の低下による減益	▲497
新規連結による販管費・営業外費用の増加	▲469
新システム稼働等に伴う減価償却費の増加	▲97
その他営業外収支による減益	▲83
その他販管費の増減による減益	▲35
2022_期末経常利益	1,357

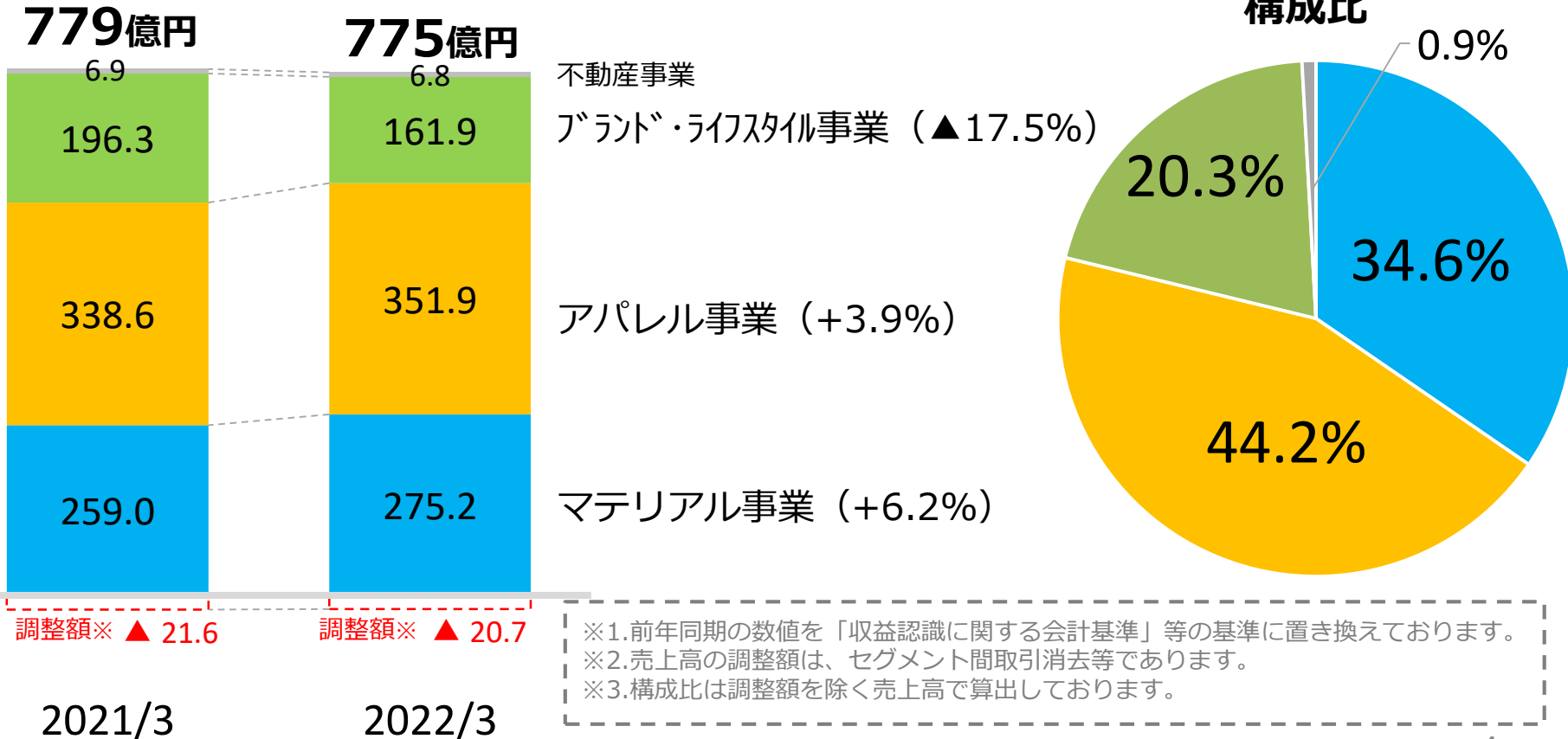


※前年同期の数値を「収益認識に関する会計基準」等の基準に置き換えて増減値を算出しております。

# セグメント別 売上高

- 売上高 775億円、前年同期比増減▲4.1億円（▲0.5%）
- 新型コロナウイルス感染症拡大に振り回される中で、マテリアル事業およびアパレル事業での売上は安定した動きが見られたものの、ブランド・ライフスタイル事業は、特に実店舗（百貨店・小売店）向けでの販売低迷の影響により減収

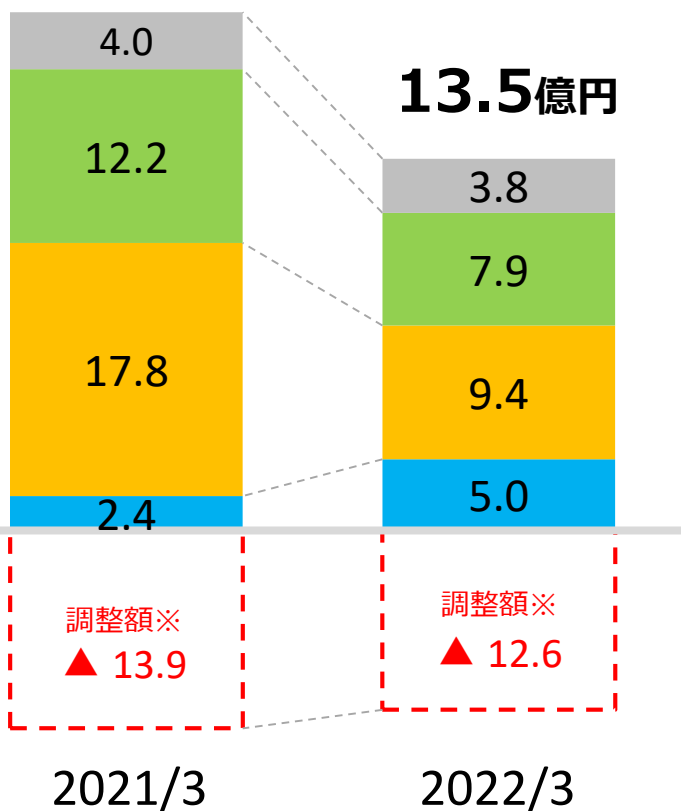
「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、前年同期値を置き替えて表示 ※1



# セグメント別 経常利益

➤ 経常利益 13.5億円、前年同期比増減▲9.0億円（▲39.9%）

22.5億円



※セグメント利益または損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 主な増減要因

- マテリアル事業 5.0億円（前年同期比増減：+2.5億円）**

  - ・全般的に綿糸相場の高騰、原料高や原油高による輸送コスト上昇により苦戦
  - ・合成繊維販売は自社加工系や高付加価値商品が堅調に推移
  - ・綿糸販売はオーガニック糸の取扱量が安定的に増加
  - ・テキスタイル販売は着心地重視のカットソー素材が復調となり増益
- アパレル事業 9.4億円（▲8.3億円）**

  - ・度重なる新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、店頭での売れ行きが低調
  - ・一方で、巣ごもり需要を取り込んだ通販向け商材は好調
  - ・全般的に原料価格や燃料費の高騰、世界的なコンテナ不足に伴う物流経費の上昇や円安によるコスト高により利益が圧迫され減益
- ブランド・ライフスタイル事業 7.9億円（▲4.3億円）**

  - ・ブランド事業では、百貨店やセレクトショップを中心に一部冬物重衣料が好調
  - ・一方で、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け苦戦
  - ・ライフスタイル事業では、ナノファイバーを使用した不織布の高性能マスクが比較的堅調に推移
  - ・しかし、一部の商材では需要が大きく低下したことにより減益
- 不動産事業 3.8億円（▲0.2億円）**

# バランスシート状況【連結】

- 現金及び預金は前期末比増減▲4億円
- 自己資本は▲10億円（株主資本は▲8億円）
- 自己資本比率は53.7%（前期末比+1.1pt）

[億円]

## 2021年3月期末

総資産 681億円

現預金 72	他負債
他流動資産	207
356	有利子負債
	111
たな卸資産	株主資本
83	345
固定資産	
168	
その他の包括利益累計額合計 13	
非支配株主持分 3	

純資産  
362億円

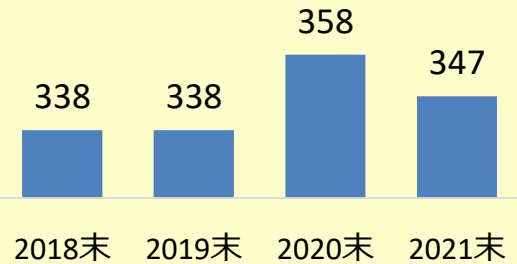
## 2022年3月期末

総資産 647億円

現預金 68	他負債
他流動資産	201
333	有利子負債
	94
たな卸資産	株主資本
90	336
固定資産	
154	
その他の包括利益累計額合計 10	
非支配株主持分 4	

純資産  
351億円

## 自己資本



	2020末	2021末
自己資本比率	52.6%	53.7%

# キャッシュフローの状況【連結】

現金及び現金同等物は、短期借入金返済、関係会社株式の取得等により6,733百万円となり、前期比417百万円減少（▲5.8%）

	百万円		
	2021/3	2022/3	
税金等調整前当期純利益	2,215	1,012	
減価償却費	471	571	
持分法による投資損益及び持分変動利益	▲51	153	
運転資本増減	▲2,398	3,211	
その他	▲363	▲680	
小計	▲126	4,269	
利息・配当金・法人税等	▲755	▲1,250	
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲881	3,018	売上債権の減少・仕入債務の増加等
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲876	▲1,373	関係会社株式の取得支出増加・貸付金の回収による収入減少等
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,273	▲2,140	短期借入金の返済による支出増加等
現金及び現金同等物の増減額	2,512	▲476	
現金及び現金同等物の期首残高	4,448	7,150	
現金及び現金同等物の期末残高	7,150	6,733	

# 中期経営企画「MAKE A DREAM, 1+∞」 最終年度（2023年3月期）の業績予想について

## ■ 2023年3月期通期業績予想及び配当予想

2023年3月期の当社グループの通期業績予想及び配当予想は以下の通りです。  
2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しており、下記の売上高につきましては、当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

### 業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益※	1株当たり当期純利益
790億円	20億円	22億円	11億円	132円11銭

※親会社株主に帰属する当期純利益

### 配当予想

第2四半期末	期末	合計	配当性向
	48円00銭	48円00銭	36.3%

※上記の業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ■ 中期経営計画の総仕上げに向けて

中期経営企画「MAKE A DREAM, 1+∞」の最終年度である当期は、「経営体制の高度化」「事業ポートフォリオの最適化」「次世代事業の創出」「サステナビリティの着実な実行」の4つの重点施策の総仕上げに取り組んでおります。一段と厳しい市場動向や事業環境が続く中、コスト削減を強化しつつ、これからの社会環境変化を見据えて、成長分野への経営資源投入とグループ経営体制の高度化を行い、利益獲得の追及に努めてまいります。